

I 実践

1 研究主題

児童一人一人が人権尊重の自覚をもち、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「確かな学力をもち、たくましく生きぬく創造性豊かな実践人を育成する」を教育目標とし、具体的なスローガンとして、「あいさついっぱい、元気いっぱい、笑顔いっぱい 会瀬っ子」を掲げている。これを受けて人権教育では、「好ましい人間関係をつくり、誰に対してもわけへだてしない子どもの育成」「自分から進んで学習し、物事についての正しい見方・考え方を身に付けた子どもの育成」「集団活動を通して、互いに認め合い、助け合う子どもの育成」の三つを目標とした。

会瀬小学区は、地域のまとまりも強く、学校への協力も多大である。地域とのかかわりや学級内での児童同士のかかわりの中で、互いを理解し、尊重していこうとする態度の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 一人一人を大切にしたい学級経営の充実
- イ 地域行事への積極的な参加

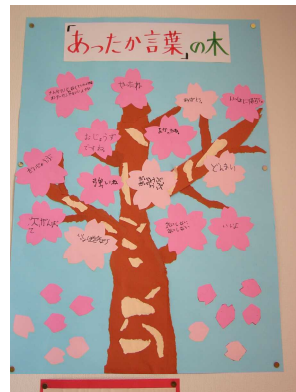
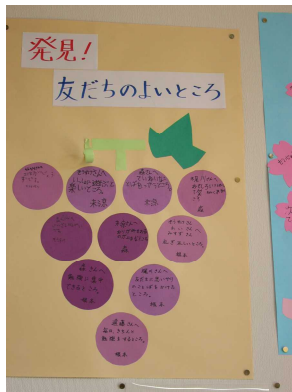
2 実践内容

(1) 一人一人を大切にするため

ア 学級経営のなかで

児童同士、教師と児童が相手のよいところを見つけ合い、互いに認め合うことをねらいに、一人一人のよいところを見つけ合う授業を行った。「発見！友だちのよいところ」として掲示し、人権尊重の精神の育成に努めている。

また、あたたかい言葉とチクチクする言葉について考え、言葉のコントロールができるようになることをねらいとした授業を行った。あたたかい言葉＝褒め言葉、感謝、励ます言葉。チクチクする言葉＝乱暴な物言い、馬鹿にする言葉。たくさんの言葉をあげてから「あったか言葉の木」をつくり、児童の意識の継続を図っている。

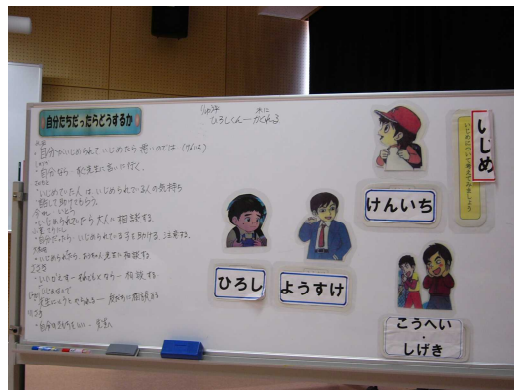


イ いじめを撲滅するために

人権擁護委員による「いじめをなくそう人権教室」を実施した。3年生を対象に、アニメビデオ「いじめはゼッタイわるい」を鑑賞し、その感想をもとにみんなで話し合いをした。加害者、被害者、傍観者という3者のそれぞれの立場の気持ちを考えたり、自分たちがこれから同じようなことになった場合について考えたりした。

「いじめ」という行為を例に、登場人物それぞれの気持ちを考えることを通して、他人への思いやりやいたわりの心といった人権尊重意識を養うことができた。





(2) 地域行事への積極的な参加

ア 三世代敬老の集い

9月に行われている『会瀬学区「三世代敬老の集い」』に全校児童が参加している。お年寄りに対して、敬いの気持ち・感謝・いたわりの心をもつことや、地域の人々と触れ合うことをねらいとしている。学年やブロック単位で、歌や踊りなどの発表を行ったり、児童一人一人が書いた手紙をお年寄りに渡したりしている。

イ 会瀬秋祭り

10月に行われている会瀬秋祭りに、展示の部と発表の部で参加している。全児童の絵画や習字などの作品を展示したり、ダンスや合唱の発表をしたりしている。

ウ 浜の焚きあげ祭

毎年1月15日に地域で行われている古来からの行事に全校児童が参加している。行事の由来や昔の会瀬の様子などを知るとともに、地域に対する興味・関心と郷土愛を高めることがねらいである。凧上げの見学や浜太鼓の鑑賞、児童一人一人が持参した正月飾りや書き損じの書き初めなどを燃やしている。

3 成果

児童が互いを見つめる機会を設けたことにより、認め合い助け合うことができるようになってきた。また、本校には年間を通して地域と連携して行う行事があり、家庭や地域と連携を図る様々な体験活動を通して、豊かな心や他者と関わる力が養われている。

II 今後の課題

授業の中での認め合い、助け合いをさらに大切にし、共に伸びる喜びが味わえる学級経営に努めたい。

III 人権コーナー設置の様子



友達のよいところを見つけよう



今日も自分のめあてを確かめよう
—いじめをなくすために—